

# 国立国会図書館所蔵写真帳・写真集の 内容細目総覧 一明治・大正編一

村上清子

## はじめに

本書は、写真集や写真帖に掲載された個々の写真の内容を集成したものであり、写真集の内容細目である。対象としたのは、明治・大正期の図書であり、収載されている写真の大半は、大災害とか戦争など歴史的な大事件を記録したものあるいは名所旧跡を中心とした地誌の写真版である。

近年、古い写真が関心を集め、新聞社が家庭にある古い写真の提供を呼びかけたり、明治から昭和前の写真の展示会、あるいは懐しの写真集の出版などが行われるようになった。また図書館に対するレファレンスの依頼は、文献に関する情報を求めるものが大多数であるが、最近写真など視覚資料に対する需要も増加している。

報道価値のある大事件や著名人については、それを主題とする資料が多く出版されるため、写真を探すのは比較的容易であるが、ありふれていて、誰も記録を残そうとしない平凡な事物を撮影した写真を探すのは、意外と難しいものである。特に、明治・大正期には写真は専門家の仕事であり、一枚の写真ができ上がるまでに多大の経費を要したため、レンズの向けられる範囲が限定されていて、そのような写真自体がほとんど残されていない。だから、この書誌は明治・大正期の事物を調べる場合に、

有効な働きをするように作られている。

資料でも写真でも、ものを探す作業の中では、経験から体得した知識が重要な役割を果たす。出発点から目標にたどりつくまでの経路が曲折しているうえ、途中に分れ道が多いので、適切な進路を選ぶにはある程度の熟練を必要とする。しかし、方向の選択に際して補助となる道具があれば、熟練の一部を代替することができ、難題にも速やかな回答を出すことが期待できる。このことも本書を作成した理由のひとつである。

当館は膨大な蔵書をかかえているが、蔵書目録の中から、写真を多く収載した資料だけを取り出すことは難しい。初めは写真集の目録を作成するつもりであったが、今まで多くの専門書誌を利用した経験から、内容にたちいってまで記述した方が資料を探すのに役立つと考えた。本の形で残されている写真つまり歴史的事実の記録は、特定主題への集中度が高いとはいえ、書名、著者、出版事項などの書誌情報だけでは代表しきれない豊かな内容をもっている。だから本書は調べる書誌であると同時に読まれる書誌であることも意図している。

もとよりこのような書誌には、個々の事項から資料に到達できる索引を備えることが望ましいのだが、本編だけで相当な量となってしまったので、中間の成果物として、ここに公表することとした。これ以後は、昭和前期の部にとりかかる予定であるが、一個人の手仕事であるだけに、完成時期を約束できないのが残念である。

最後に、本誌の作成に理解を示し、通常の「参考書誌研究」五冊分の厚さはある本号の刊行を快く認めてくれた関係者の方々に謝意を表す。

# 目 次

はじめに	( i ~ ii )
凡 例	(vi)
口 絵	(vii~ x)

## 第 I 部 地 域 編

世界各国	1~12	(p. 1~21)
日本全国	13~35	(p. 21~51)
北海道	36~46	(p. 51~59)
東北地方(青森県・岩手県・宮城県・秋田県 ・山形県・福島県)	47~64	(p. 59~65)
関東地方		
栃木県・群馬県	65~76	(p. 65~68)
茨城県・千葉県・埼玉県	77~82	(p. 68~69)
東京都	83~101	(p. 69~77)
神奈川県	102~105	(p. 77~78)
北陸地方(新潟県・富山県・石川県・福井県)	106~117	(p. 78~82)
東山・東海地方(山梨県・長野県・岐阜県 ・静岡県・愛知県)	118~129	(p. 82~84)
木曾	130~133	(p. 84~85)
富士山	134~139	(p. 85~88)
近畿地方	140~143	(p. 88~89)
三重県	144~145	(p. 89)
滋賀県	146~150	(p. 89~91)
京都府	151~164	(p. 91~96)
大阪府	165~169	(p. 96~98)
兵庫県	170~175	(p. 98~99)
奈良県	176~179	(p. 99~101)
吉 野	180~183	(p. 101~102)
和歌山県	184~187	(p. 102)

中国地方	188	(p. 102)
鳥取県・島根県	189~190	(p. 103)
岡山県	191~192	(p. 103)
広島県	193~197	(p. 103~104)
山口県	198~202	(p. 104~107)
四国地方(徳島県・香川県・愛媛県・高知県)	203~210	(p. 107~110)
九州地方(福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県 ・大分県・宮崎県・鹿児島県)	213~224	(p. 112~115)
沖縄県	211~212	(p. 110~112)
朝鮮	225~234	(p. 115~119)
中国	235~249	(p. 119~137)
台湾	250~259	(p. 137~144)
蒙古	260	(p. 144~145)
カラフト	261	(p. 145)
フィリピン	262	(p. 145)
南洋諸島	263~266	(p. 145~151)
東南アジア	267~268	(p. 151~152)
インド	269~272	(p. 152~154)
ヨーロッパ	273~274	(p. 154~156)
南北アメリカ	275~280	(p. 156~162)
遠洋航海	281~286	(p. 162~165)

## 第II部 事項編

軍事・戦争	287~288	(p. 167~168)
陸軍	289~305	(p. 168~173)
特別大演習	306~322	(p. 173~175)
海軍	323~331	(p. 176~179)
観艦式	332~334	(p. 179)
大・小演習	335~343	(p. 179~182)
日清戦争	344~345	(p. 182~186)
北清事変	346~371	(p. 186~195)

日露戦争	372~396	(p. 196~237)
第一次世界大戦	397~407	(p. 237~264)
シベリヤ出兵	408~415	(p. 265~268)
人 物	416~436	(p. 268~276)
皇 室	437~443	(p. 276~280)
明治天皇	444~447	(p. 280~283)
大正天皇	448~457	(p. 283~288)
今上天皇	458~466	(p. 288~298)
産 業	467~470	(p. 298~301)
博 覧 会	471~477	(p. 301~303)
内国勸業博覧会	478~484	(p. 303~305)
共 進 会	485~493	(p. 305~309)
鉱 業	494~498	(p. 309~311)
工 業	499~503	(p. 311~314)
建築・建設	504~520	(p. 314~321)
学 校	521~530	(p. 321~323)
公共施設	531~538	(p. 323~331)
鉄 道	539~543	(p. 331~333)
病 院	544	(p. 333)
福祉施設	545~546	(p. 333~335)
スポーツ	547~551	(p. 335~338)
芸 能	552~560	(p. 338~346)
宗 教	561~567	(p. 346~348)
明治神宮	568~573	(p. 348~350)
民俗・風俗	574~582	(p. 350~353)
災 害	583~592	(p. 353~357)
関東大震災	593~611	(p. 357~379)
時事報道写真	612~624	(p. 379~412)
生物・標本	625~645	(p. 412~414)
作 品 集	646~672	(p. 414~423)
書名索引		p. 425~436

## 凡 例

### 1 収録の範囲

原則として、明治・大正期に刊行された当館所蔵の和漢図書の中から、写真の図版を中心とした図書を選択した。ただし、明治・大正期に関する事項で、昭和初期に刊行されたものも一部収録した。

### 2 排 列

地域編と事項編に分け、それぞれ適宜な項目を付けた。項目の中は原則として書名の五十音順の排列であるが、年代順の項もある。

### 3 記載の内容

- (1) 記載の順序は、書名、著者名(編者名、撮影者名)、出版地(東京と官庁は省略)、ページ数(片面に印刷のあるものは枚数)、図書の大きさ(横長本には○×○ cm)、定価、当館請求記号とした。
- (2) 内容細目については、目次から記載した。なお、目次が多量になるもの、目次のないもの等については角カッコ内に資料の説明をした。

### 4 索 引

巻末に書名索引を付し、排列は五十音順として、文献の一連番号で示した。

### 5 使用の手引

この目録では、記載写真を個々に分類せず、図書を分類しているため、関連事項も見ていただきたい。例えば、乃木將軍については、「事項編の人物」のほかに「事項編の日露戦争」など。

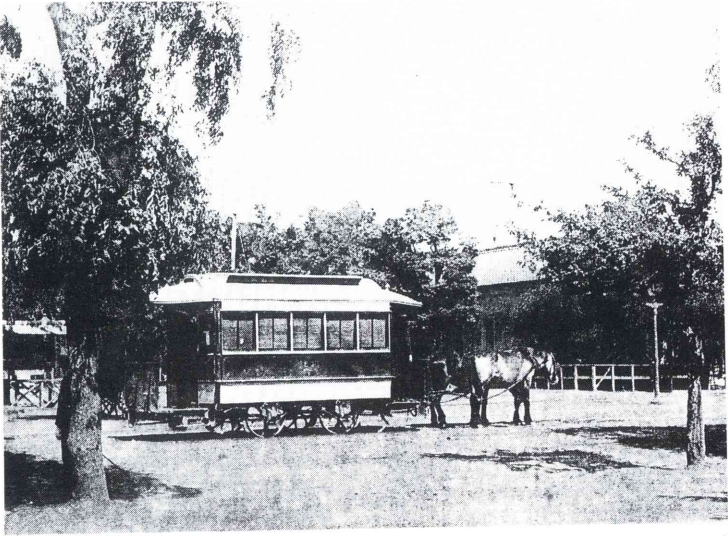
※ 本書は明治・大正期の資料を扱っているため、現在では使用すべきでない差別語や適当ではない語がみられるが、図書の目録という本書の性格上、やむをえずそのまま記述した。



オリジナルプリントの貼り込みの一部



道頓堀 (大阪府写真帖 <大正3刊>)



目鏡橋鐵道馬車停車場（東京景色写真版〈明治26刊〉）



鯨漁業（樺太写真帖〈大正14刊〉）

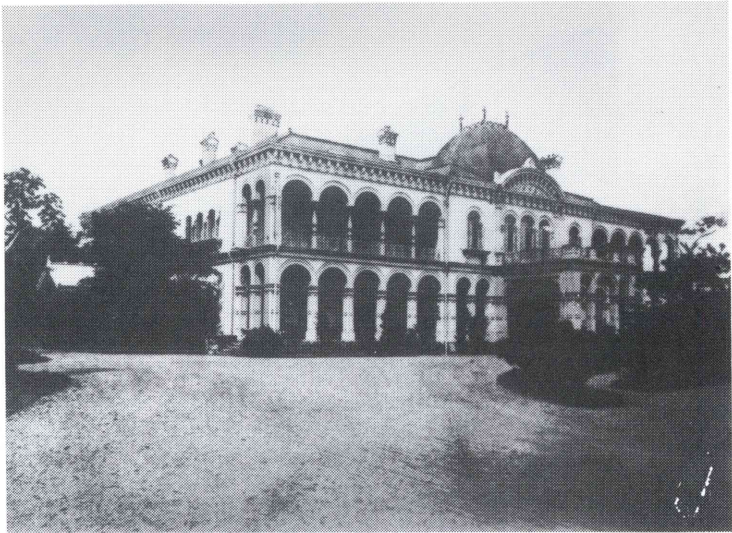




銀座通 (旅の家土産第29号 <明治33刊>)



浅草十二階  
(東京景色写真版 <明治26刊>)



鹿鳴館 (東京景色写真版〈明治26刊〉)



最初の博覧会 (実写寛都五十年史〈大正6刊〉)